

繪本豊臣勲功記

五編
六

遠 13
2209
46



特
遠 13
2209
46

繪本豊臣勲功記五編卷之六

目録

福鴻小西使日相越敵

属 城中發動

秀右恪霖兩水攻高松城

属 三家援兵

豊臣五編卷之六

桂氏那智勇抗生石練叛

属 安土乞帮

光秀再練若遂作謀叛根

属 蘭丸産起



繪本量長勲功記五編卷之六

江戸 八功舎 徳水刪補



福偶小西使日相城惑敵属城中駿動

王父度年既小十六に至りぬまども又猶膝小してこれを抱く外目小者
も遠日相の一城八日相六日相云傍季則と大将とて上京若海の志吏元助を

副将とて行舟惣在るの成光桂源左衛門兼攻倭加着たり其勢一子五百餘
人少く軍城也中少日相季則の大力猛勇なる候とて自己に強きて副将

上京元助を敵とて平生の拳止不禮の事此に多かりたれば元助頓て不候
を合めり然るも羽柴秀吉の去とて骨せし三城を攻備り相小向とんと候

一けるが當城の別とて地の理より一力戦とて有益なりと問者答

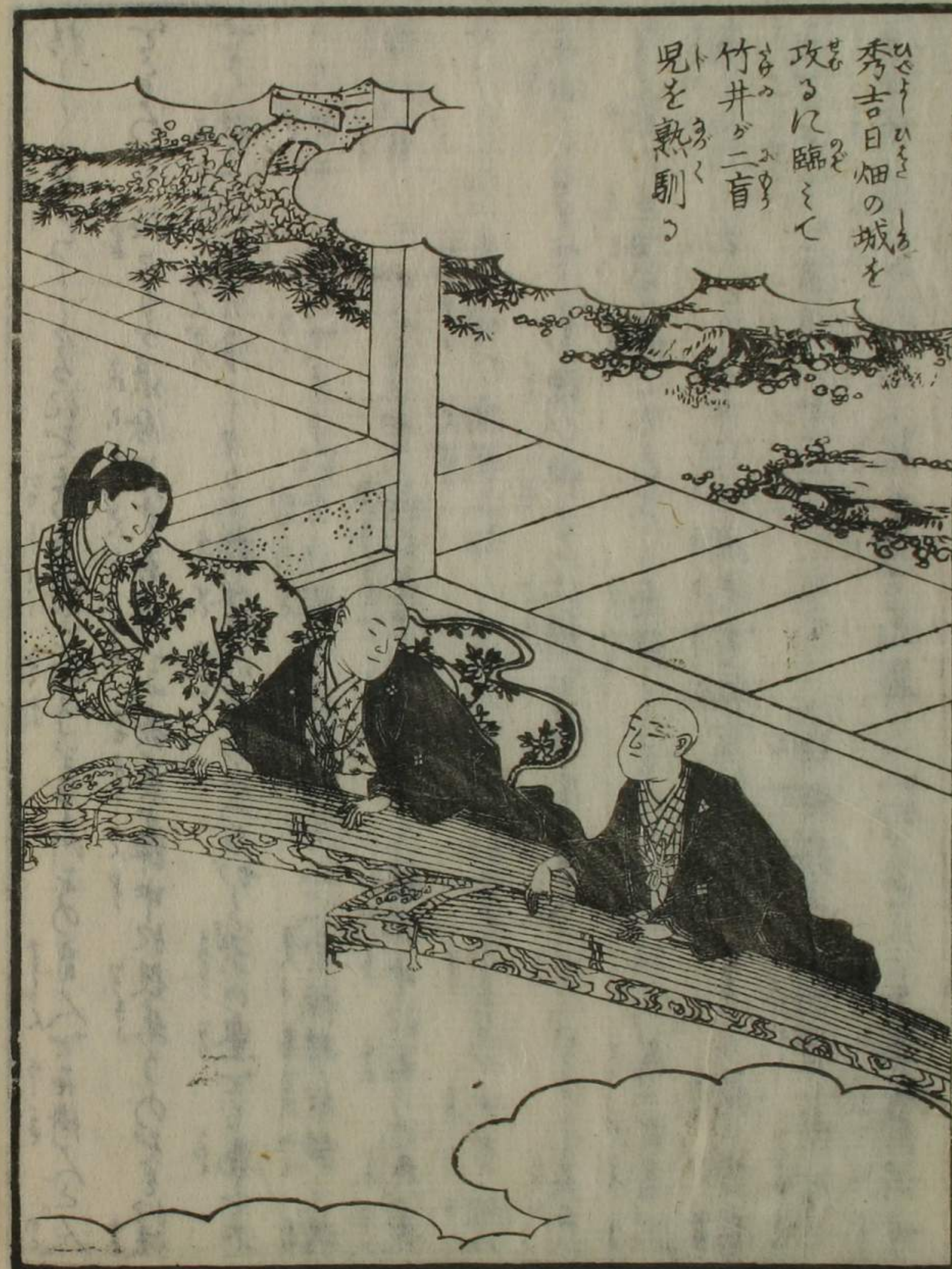
日相の城ハ
神中の國ハ
手解は
山の南に在

て款中の蹠蹟を精しく窺ふに果日かく間者走歸り。潛ふ若て重く
 たりやう日相の城中相通に勇を争ひ威を競ふ中ふ日相季則の暴勇なれ
 とも智謀陰く竹井成光の権微ふて慈小藩也。桂葉政の智勇あまこ
 も小勇なるゆゑ日相侮あをを用ゆる事なり。只上原元助のそ天野元政の妹
 撃にして隆景元春と親しむ縁類ゆゑ城兵多く軍を教ふこれかあふ城
 中今平らなるべし別く竹井が憐ふおつて六日ごろふ三百人を傾ゆる身にて
 日相のを色に委とわやさ婦人あり。既ふ二個の男児を儲けく母子齊
 一に健なれどもいゆる希業ありとあや。雙子ゆてせきをかめく此盲目
 くれバ。城中の面取取く城外に棲せく養育以成長く此年十八
 歳なりなれば。座頭の通せりとくくろく見才倍に才徳勝き技藝按
 那なりといども。又忠左衛門固窮るま。官の身ふて今に并置い。

精しく言状をくろにせ。秀長將と聆りてまがその盲人を石崎人と人
 とをとりて招らる。渠彼兄弟舟一ふ。秀長が陣中に投束り。のぞきに後
 せく。琴一曲を弾吟くろが。韻聲、流技をこつが。紫の塵をも動とを
 うり。絶妙ふこそ听えこれ。秀長殊ふ秀長の体ふて。金銀勝規規。種
 種飲食して命せらる。汝們兄弟朝夕とる。陣陣中にありて我を慰
 めまうしむ。兼一伴ひ。檢校ふくこれん。望はるやと重き。兄弟は
 雀躍するもせらち執び。沸く六仁情をめぐせむと善くありて其日ハ
 日か家に立帰里。母ともあましく高紙しつ。これら此細波折簡ふ記書。父
 教左衛門に告よりたる。竹井成光書翰を記して心中又ふち強き。備は秀
 長兄弟を我兒と知りて。形はせし。智謀精き。羽軍が料理行
 舟を降参させんとし。備意なりぬ。いかにせんと左衛門頭沈吟



秀吉日畑の城を
攻るに臨みて
竹井が二盲
児を熟馴る



此胸も誦々如く更に心は決せざりけり。然わが筑前守ハ二個の盲児
 を日狭小懸意日相上系分事を接しく聆出しく自軍の兵士を獲かざる
 事。落城せむ人之之吏を。まづ後情を多く呼寄せ汝を當城へ使者た
 らしめん小懸意を慎之。曾言せりて。吾謀計を用也。と次小西小倉
 等中。汝市松小伴おれ。日相小懸意。那般に料理下。努く意を
 かしげと。秘詞を密に口受か。と。二人慎人へ領兼か。脱進せりち出
 けり。斯とも知し。城中心に軍旗を。つる。と。汝へ後島市松小西
 九角。甲冑あらぬ。禮服を。城門外へ出たり。是ハ羽柴筑前守か使者
 なるが。滅す日相季則小。對面の。推泰せり。と。消息を。城守門の兵士
 本丸小若達。日相季則使者を。地小呼寄。後情へ突と。本丸小
 通。小西ハ二の丸に通。季則。意趣。福清を書院へ

通。日相季則植兼政市松を出迎。本座に看。福清小向。使者の赴。け
 たり。何んが使者。使者。何ん。と。願。準備。や。と。人。大。益。に。膜。膜。と。添。添。と。
 齋。出。たり。季。則。毒。味。と。ま。つ。と。人。と。二。益。耗。と。秋。たり。と。市。松。正。則。備。も。翻。
 息。も。次。を。飲。盡。て。しま。一。盃。と。重。杯。たり。と。人。季。則。先。や。下。物。せ。んと。と。大。碟。子。
 此。を。より。把。出。さ。る。あ。ま。緒。の。後。是。あり。新。の。替。し。き。所。備。上。上。方。を。是。に。使。と。
 る。者。の。帝。城。を。徹。す。の。思。は。河。れ。は。食。せ。し。備。も。あ。り。し。が。遠。處。を。ハ。遠。部。の
 地。な。れ。は。憐。れ。と。も。為。も。な。れ。の。と。わ。り。に。西。濃。の。毒。を。佛。と。人。と。戒。刀。を。脱。し。屠。
 録。音。響。み。し。て。喫。し。了。骨。の。を。残。し。て。並。た。れ。の。人。と。小。威。驚。か。し。古。を。接。て
 を。畏。ま。たり。洗。小。盃。盤。わ。り。た。れ。は。福。清。威。儀。を。整。し。る。日。相。桂。に。齋。を
 日。遠。遣。主人。筑。前。守。當。國。ハ。教。向。し。と。事。是。れ。の。趣。意。に。向。し。て。を。集。備。國

勅札して干戈は休むと見え。あれによりて。天子も敵慮をやとんと
 痛めゆひ申し將軍の命令に背く類族殊ふ多く。下の諸氏を困苦しむ。其
 りて右府信長公四海を鎮め天子に補佐し。是平れしめんと欲して。遂に
 伐順を援助し。然るに中國先利の案多勢を頼之。我意に背りて。隣
 を侵襲し。天子將軍の法令を怨む。合戦を挑する。是何といふ。奉止せしむ
 軍の命に背りて。我意を違ふるは。何といふ。主人秀吉命を奉て中國
 西國を平治し。めまば。改まるるは。陳泰し。快遠城を據る。あそ。忠儀
 一。つる。それと。勇を合人。言を巧ま。使者の口状を述る。彼も。短慮の季
 則。心中。大に。腹り。る。由。忍。眼を。肝て。あり。ける。を。桂。葉。改。登。く。も。益。し。目。注
 ち。つ。日。加。と。鎮。心。詞。靜。に。俺。們。主人。の。命。に。依。り。日。加。の。城。に。對。敵。守。然。を。將
 軍。に。命。なり。と。く。主。命。下。ら。ぬ。もの。う。ら。は。し。て。憾。を。秋。方。へ。通。与。び。不。惜

更にか。登り降りて秀吉に。返答。何事と。謂断。し。て。正。則。腹。を。肝。を。肝。を。
 新。生。を。穩。敏。小。統。と。い。ふ。も。天。命。を。知。る。は。是。非。も。一。遠。上。に。合。戦。し。し。
 其。胸。こ。を。今日。の。會。好。に。我。汝。を。對。敵。に。ま。し。と。銘。度。起。て。融。と。然。と。邊。
 泰。し。ける。備。亦。小。西。孫。九。弟。の。二。の。九。に。陣。所。不。通。り。竹。并。想。左。邊。に。對。面。し
 て。密。使。の。詞。を。細。出。り。る。に。成。光。最。先。妻。を。許。り。息。子。を。事。を。若。來。り。
 いう。ま。な。と。と。意。も。使。着。は。沈。今。に。悩。む。機。會。な。れ。近。上。を。遠。ざ。け。使。者
 を。を。づ。け。何。事。も。や。と。問。問。り。る。伐。小。西。行。長。言。を。和。け。け。是。下。に。所。息。を。預
 て。り。る。主人。秀。吉。存。存。細。子。知。り。め。せ。せ。れ。晝。夜。終。下。振。を。惠。申。す。と。て
 新。如。く。あり。父。上。是。下。に。も。通。所。諸。心。何。部。へ。登。せ。檢。校。に。も。め。さ。す。
 思。存。さ。り。なり。敵。と。い。ふ。も。荒。布。布。に。惠。の。量。を。盡。し。り。と。竹。并。が。心
 中。子。の。恩。愛。に。迷。ふ。事。に。專。し。出。使。者。の。口。状。忘。ま。る。竹。小。又。せ。り。の。要

時ありていふ子も乃支那の詞に取付れ使節の口候を忘れたる。遠道秀
 吉當地へ来り。斯証代に及びぬ事。君命を重むる事あり。然りとらば
 仁我を先と。彼卒の損亡分たこと成事一人。あまを隔せし城は是非
 一。遠日相の二城にかゝる。雙方を事の料理こそ好まされ是下に其
 意のあつざるやと解着られと。あまの息子が書面と小西が詞符合せ
 一由之世端ハ安達一。低頭てありたる。响九糸頼て齋来り。黄金珠
 系を把中し。これハ秀吉朝夕に是下の子息に慰められ。背を清せし謝
 として。是下がふ進むるころなり。所業何事と進れば。竹舟も今まで
 ませぬ。彼此ふ迷ふる在り。これを看より。破心發起し。且ハ我子の志に
 伴され。此贈寶を受納め。奉還にむる。是れ料理。単に頼ひまつまると。
 聆て。九糸頼たると。愈恩愛の詞を述べし。巧言をりつと。示しける。ふ

七竹舟計略とら。夏もあつた。後中蘆中。終交しつ。日相を殺て。降参
 したく。約束して。小西ふり。是れ。是下。大將。上系。元助。免に。是下。今。日
 羽柴。秀吉。より。使者。を。越。され。その。趣。所。聆。ある。や。と。訊。られ。元。助。は。は。は。
 聆。及び。ぬ。其。儀。小。頼。と。是。下。とも。密。禱。し。た。事。こそ。あ。ま。今。秀。吉。軍
 威。より。天。魔。も。降。る。は。相。なる。ふ。増。て。信。長。下。向。せ。禱。し。さ。大。事。出。来。と
 一。秀。吉。の。祝。と。ころ。最。も。通。理。に。協。する。降。参。する。小。如。屋。か。げ。と。
 聆。て。成。光。然。ら。ば。登。く。吾。儂。が。降。路。の。儀。せ。り。て。羽。柴。が。許。へ。密。通。せ。り。日。相。桂。の
 友人。ハ。平生。我。意。に。長。ト。なる。こと。意。悟。られ。奴。儂。を。殺。す。方。術。ハ。斯。く。如。く。に
 せ。ん。と。願。を。述べ。密。禱。教。刻。小。頼。ひ。ける。潜。子。日。相。季。則。城。殺。害。を。な。す。准。海
 一。使。士。を。り。つ。日。相。が。許。へ。當。遣。す。自家。より。急。用。を。留。め。し。急。に
 來。應。ある。と。知。報。に。季。則。が。ふ。と。ふ。や。と。桂。兼。政。も。通。信。の。暇。なく。一。返

人の伴奴を法連と云ふ。上原が宅へ来りける。日相の詞の倣を伺ふ。人と言せし
 しく訊ぬ。胸と上原を腹を腹らして。某方先刻款將り。此來使を厚く款待
 て。賄給を受内通せり。所人ありて明白なり。檢使の乃史聆ゆる。六并
 まどき通るたふ因て。登く切振つてさうぐといふ。果比。あ心舟の相を
 その心。野心の澄む。存とらきて。斯の東へ出らる。やと。いふ。海は竹
 井成光。虚くしき。澄掃呼り。何故あつて。款使を呼寄。款利困結たの
 うらも。英味を竭して。款待まて。是平しく。款通せり。澄掃なり。又音
 聲に呼りたれば。季則大に激憤なり。こそ。あ源を計略あり。汝どこれ
 の知とる。さうぐ。と。いふ。際もあつて。せむ。想た。清。頼。准。徳。底。香。流。襟
 くつろ。い。く。撃。發。せ。る。得。に。猛。き。季。則。が。肋。の。極。り。肩。尖。へ。水。も。溜
 ら。び。撃。撞。れ。例。も。る。る。も。猛。氣。の。日。相。を。刀。を。扱。人。と。い。く。成。上。原

虚際さ。は。傍。面。吹。着。ま。は。を。慚。や。忠。義。の。季。則。も。軒。邪。た。た。ら。不。徒。頑
 して。震。しく。衣。着。を。埋。り。り。この。強。勅。に。を。士。皆。慌。忙。ち。り。ぐ。に。金。逆
 失。て。他。人。へ。り。後。上。原。が。内。室。の。天。野。元。政。の。息。女。も。我。騰。男。士。に
 も。勝。り。ま。り。か。遠。東。西。栗。小。鷲。さ。て。朔。月。の。下。の。廳。に。鏡。ひ。在。る。も。秋
 毫。知。ら。ず。竹。井。成。光。低。音。を。脱。法。の。日。相。を。殺。裸。せ。た。れ。ば。この。う。の。桂
 一個。なり。先。や。相。持。若。知。せん。と。祝。筆。を。さ。せ。走。書。して。密。書。を。記。書
 在。り。し。り。り。此。と。出。た。る。上。原。が。妻。換。子。の。下。不。落。り。た。り。刀。を。把。て。撃。ち
 を。着。せ。ば。想。た。清。の。正。西。小。韓。竹。の。像。く。敵。放。せ。ば。上。原。大。小。鷲。顧。み。し
 斯。の。何。事。を。と。刀。推。抜。内。室。持。た。る。真。及。を。抛。并。葉。石。が。若。手。を。撥。平。と
 聲。へ。ま。り。持。ち。入。東。ま。ど。き。一。言。あり。公。竹。井。が。意。事。に。前。提。し。先。利。家。の
 大。恩。忘。却。し。の。ひ。み。よ。由。意。款。子。通。り。を。せ。り。り。り。り。女性。あり。とい。へ。ども



七原元助の
 妻義助
 逼るを
 竹井脩を
 憤殺す

恩義ハ背にまうまぬト別く親しき身を持ち不道に共なる解罪ハ
 際く切後ハ久くは初断つてまゝと法氣も謂語られしをよ系命
 や惜りけん言をもつて起奉る哉快く夕と責蒐らま在吐くひてよ系
 元助玄関のうへ逃出る内室ハ公儀使し浩る未係の夫を置て恥辱
 さんよりと刀推拵返蒐むく出合願に之本元他門の辨り目本伯父仇
 みれば終へせと段て蒐る哉板拵て横ぬふ素顔ころりと碩落は上
 系これをも纏む脚小信せし逃行しる過着て一聲うけ恥を思ひ初り
 ちへといひさぬ斬たる腰車此轍ハ離まき二段に血烟起せ倒まきり機舎
 ぶ桂源左衛門ハ巡檢に出るが最光撃たる香銃の音を怪しむと系
 が宅へ来蒐りて今内室を夫を返出碩例せし杖を固小着るなり飛か如
 くは是有り内室を抱任澆漢を問ども息次ハ征へ一言も言滑まは

悪妻時劫抱するうち漸く胸もおちわゆる由悪竹歩此悪逆良人の娘未係
 細小傳りあつて后悪るは初擡まるといつとどの妻の才うて良人誠
 手にうけ活永らるべき不係や使より是期を畢たまはらるる送章を死
 骸に傍本國へ送るゆゑと有りたれば桂兼政大に感ト大張るる許奉止致こ
 そあるべき許事され浩る業勅ありこの款陣へ聞えか速地推進来
 るべし我一人の力をりつて防戦するもなまじけき乃長も遠を退城
 して一急難羽へ立帰らん辭に許准依あふると東まふ内室も洞を
 蔵し筆雄しく送書して襟下着ごとふ自害なり。漢元を遂ぐる所地
 ハ有係に天野元政の娘有りてと衆人奉て感嘆しなり。桂源左衛門並政
 ハ内室の死後をあらわく葬送諸年を次身以退せ自身ハ志づかま
 罪後して墓別當てて卒退く秀吉ハ日く秋に間者を宮城中の蹠

溪を窺せしむ。これらの事を快く知らば。自方の搦兵桂が退去し退去せんと喉を制しし。降る軍の進ぶるべし。故後城もあつたを弱に就く。段ととみえんと。その城中の政事とす。備も諸軍と進ませ。高松の城を攻陷さんと。龍王山小懸崎を。四邊の地理を仔細に量定せしむるなり。

秀右将霖雨水攻高松城属三家援兵

春の甲子に西る時。赤地千里。夏の甲子に雨する時。舟に乘り市に入り。秋の甲子に西る時。赤頭耳を生ず。冬の甲子に雨する時。牛羊凍死と。謂て。程候の言。秀右将も是を候て。遠地の事。度量らん。然りとす。洗前。龍王山小懸崎。下小懸城を沈視し。丹も遠高松の一城。平地の小堆に丘ありて。深田池塘四面を繞り。面門の道。はらう。小陣を通じ。最も窄き。流末なり。秀右将。これを候て。遠城郭に推進せし。

高松の城は加藤那に於てあり。其の南に赤松の山あり。其の北に龍王の山あり。其の西に深田の池あり。其の東に小懸の山あり。其の南に赤松の山あり。其の北に龍王の山あり。其の西に深田の池あり。其の東に小懸の山あり。

尋常の軍をかき。兵士の疲勞を憐れ。少くして攻備す。とて容易かるまじ。地の理を察して。謀をまゝ。水攻にあら。利あるを。諸將。陣を。龍王山の南。平山。鼓山。右。依中山。其外。之。村。志。は。操。つ。せ。備。本。陣。を。懸。く。鼻。一。撤。將。居。さ。は。ら。う。板。倉。が。暮。み。く。降。参。し。一。言。難。人。彼。率。一。十。餘。人。小。を。郷。を。村。の。百。姓。率。一。子。餘。人。を。駈。集。め。晝。夜。を。分。つ。て。山。野。を。穿。ら。せ。く。其。首。領。を。七。救。百。万。餘。の。砂。囊。を。傾。小。辨。つ。せ。ら。う。後。は。工。匠。の。棟。梁。津。路。大。八。丈。門。板。を。つ。と。い。ふ。の。ほ。り。羽。柴。家。の。扶。持。人。を。れ。ば。秀。右。将。候。を。招。寄。遠。道。を。松。城。攻。ん。と。し。う。水。を。と。ら。う。隘。さん。と。い。ひ。既。先。達。て。その。准。後。に。一。間。敷。を。も。し。く。歩。軍。お。さ。さ。ら。う。彼。們。五。人。去。地。を。築。つ。て。その。條。三。一。勝。亦。と。う。ら。地。攻。の。多。く。を。委。せ。登。し。と。命。せ。彼。五。人。傾。受。か。ひ。この。致。因。ふ。一。編。坂。基。内。を。當。副。ら。る。國。八。月。の。初。め。て。昨日。甲。子。の。日。な。り。な。ら。が。五。日。を。權。び。な。ら。由。志。定。



筑前守
大石量料
高松の
城を
水攻
せんとす



一里下の
大木に
村の
中
の
ま
ま

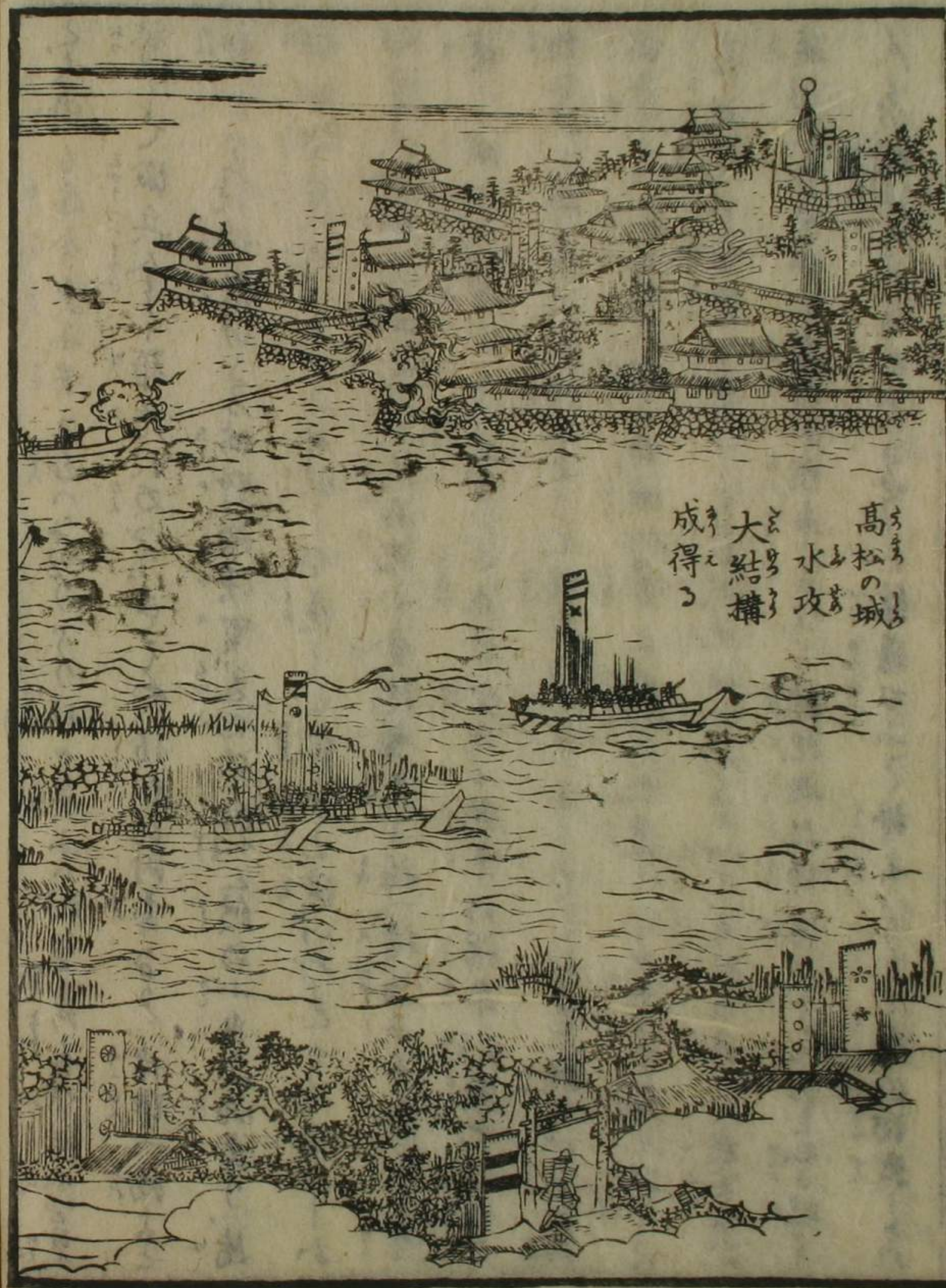
一里下の
大木に
村の
中
の
ま
ま

めて霖雨なり人と悟り遠近企てたりとハ尋常なりぬ謀士なり備
秀右八人扶の軍を夜小日成候ていつせたるゆゑ五月より小成統せり
遠大之悦の結核ハ高サ二間根越十二間上段六間總長サ一里才餘
極をうら大徳と海蛇筋をさく柵を信ふ袖裏ハ七百萬九十九万
七百五十張を積せり云悦のうらハ新小成と稱せしを諸の商人を
に集めせり賣買のこと成辨さくぬ最大融けんせうけたり城中より
此体を見て掌を拍ふひに嗤歌の討暗を奏するふ當城をりて水攻小
せん改企めらんがゆゑの事を演出さんと方武士の阿房さよと潮井
まることあやうさくは秀右八日と巡檢せり云悦に十原の整成たる
と見く討分へうと體てより長良大井の川合小橋をりて石を積て
河水を堰止置たる河岸を杖丈一度に切崩せを遠水溢入とつとも一里才

餘の土堤のうら水ゆれりてぬまもあつて高松の城を浸さず云系をへ更小
見えざるゆゑ城兵中へ朝美ひ呼あ止り見戲のつてけり及子もみや
と寄海り因影させたる秀右八人謀言信をりて倫をたかひ然るふ軍
安閑と軍もひさ日を送るつと五月央をさるるが及一満も路ざりしと羽柴
の諸老士心を息あいつつせんとおもふ機會も十六日の夜小入く大白星夜
物に天宮に濟て亮齋く左右に翼星の方小見られ大壘昂の二吳星少
陽にありて其光最強く是正しく森夏の氣なり聖十七日の半に刻より
夏陽出まると宛瓶水を傾くるが偉く片時も小休のりたり然るふ
高松の城をとりて清水長左衛門宗治同月清入道兄なり難波
傳を清原高を副將とす檢使の近松左衛門村家團そのや中清大
炊助片山助左清林之希左衛門長治元之進河合の志本の一統人其

勢も子有餘人。鐵石の像く穿破しつる。要害を雙の傍地といひおぼれハ
 智勇の抜群るれ。秀吉の大軍を肩ともせしむ。堤を築く。残物のうちハ
 潮がさくありつる。又月雨頻りに降灌ぎ。次第に洪水となり。今ハ早
 己に城門を水漲て落入れ。城將大少力を損。諸軍に命じて防がせけ
 直とも寸隙分れも許さずして。低き家屋の床を浸し。次第に増して。橋下
 至る人とのみくつる。諸士方僅にたむらう。寨樓に登り。樹木は枝も
 折れて。箒居て。蒲布。果蓐を重杯。おのがまふ。家財を運び。極居を競
 争ふ。と。鳥渡りの夕天。子像が如し。難車軍の不在に迷ひ。那遠に流さ
 遠道は漂泊。波に苦み。水小悩む。險にや。盧照鄰が城小つる。千里烟。煙之
 百層。濛雨。小涵を。青苔。壁を破り。綠萍。道に生むといふ。秋霖の白を
 射や。あゝ人と哀嘆。い。ま。口。又。尺。も。水。氷。凍。ま。ら。う。べ。城。中。都。て。浮。萍。と。ゆ。ん

と大將も。今。又。小。安。さ。む。ら。り。つ。り。蛙。が。鼻。ハ。羽。柴。秀。吉。は。洪水。を。見
 警して。城。兵。令。く。難。危。に。及。ぶ。ま。と。や。勝利。の時。希。なる。諸。陣。へ。洶。よ。と
 命。と。な。れ。侍。被。け。し。る。汝。野。路。決。負。意。田。の。之。物。之。般。の。小。舟。小。船。を。り。指
 揮。せ。諸。方。へ。傳。へ。つ。る。ふ。と。杖。し。や。運。し。と。諸。勇。士。達。つ。ら。も。准。備。し。お
 つる。大。船。提。以。流。余。く。大。石。砲。小。金。砲。艦。先。に。橋。へ。檣。柏。子。く。し。く。し。く。一。葉
 費。し。城。測。隙。を。く。り。つ。る。ま。は。小。舟。に。坐。た。り。懸。軍。の。諸。軍。們。懸。把。推。拉。身
 操。り。大。將。秀。吉。後。陣。小。あ。り。て。暗。号。の。大。旗。知。ら。れ。し。け。ば。城。の。四。方。を。推
 捕。卷。し。上。の。大。砲。小。砲。喊。の。聲。と。齊。一。小。丸。費。し。つ。る。石。見。ハ。爆。く。磅。と。こ
 轟。爾。了。万。雷。雲。を。送。り。て。暴。風。地。面。を。捲。く。如。く。天地。も。震。て。視。分。ら。ん
 遠。圍。に。是。と。や。と。懸。隊。の。諸。軍。も。以。て。懸。把。推。拉。舒。謀。ふ。ら。あ。る。を。擊。破。す
 人。と。城。中。より。も。と。つ。ら。と。と。槍。薙。刀。あ。り。拵。ま。り。死。を。願。は。防。我。し。れ



高松の城
水攻
大結構
成得

八官易破崩ること何とぞいふに當り日も晴天に到り隈あふに収められ
 退却して諸將を纏め船楫連てを退さる。城中に毛虎口を過ぎ終日
 若を療めり。清水兄弟雅波をねね高城をとりて亦存び。毛利三家一
 救を乞ふ人と水練の武士を擇み出し。安州へ危急を告たりたる。筑前守の
 諸兵士の残勢を切らざる。翌日同者をはりし。毛利の饒暎を討む
 るに日之家大軍を率し援兵として來り。若を伐斬て諸將にえらく
 中國名家の毛利兩川援を定めて大軍やんがそれとも亦ふよとす。押
 せん。まづ安州加勢の壓兵として合身を長を大將とす。浦上勢に股肱の
 多士。一万五千餘人を當副出張ひさむ。然れどこれ松の使者。初日下で
 安藝に到り。城中殆ど危急のしを。毛利三家へ南達し。くれ。吉川元長。小
 早川隆幸の直大將。雲伯石の諸軍を召集。その勢都合四万餘騎あり。

山崎の陣
 津の川西
 小田郡小
 倉

彼中の國若崩る。廂山に出張を。大守石馬頭輝元。安藝用務。長門の
 軍勢。四万餘騎に之進發あり。廂山より三里隔て。後蒐山に出陣あり
 然もも秀吉預てこれらの分撥せし。六只城攻を考へ。之を討て。形
 くれ。ちり流揚るる。急水愈増て。城中方僅に水の深きこと七尺餘。今日ハ
 昨日に水深増り。翌日ハ今日より深く。遠城遂に水底に沈み。若少男
 女盡く。魚鱗の餌ふり。あんと。悲嘆のまこと多し。初大將清水長盛。つ
 若び水練の者小令し。吉川元長の陣に遣へ。城中の相兵を告るに。て
 元長。隆幸。高城して。ひよとを地を破顔し。城兵を救ひ出さるといふ。く
 之を回ら。つ。隆幸諸將小向ふ。東より。自方より。小勢を率て。日如の
 城へ出て。出む。款は自方の小勢を侮し。出軍せんこと必なり。其胸乃。自
 勢を率て。討は。旗本へ。敵を蒐らん。元長。元信。三男也。友人の雲伯。二川

の勢を率て。現に蒐里く。破類をす。捕虜強元兼に一千餘人の勢を
授け。日如の背方に廻りて。自方の小勢を補助せし人。形をさしたる。款
を款と出さし人。と。大地を樓榭す。ぬぐ。と音高城一決す。その準備を
せしむける

桂民於智勇扼生石謀叛馬安と乞幣

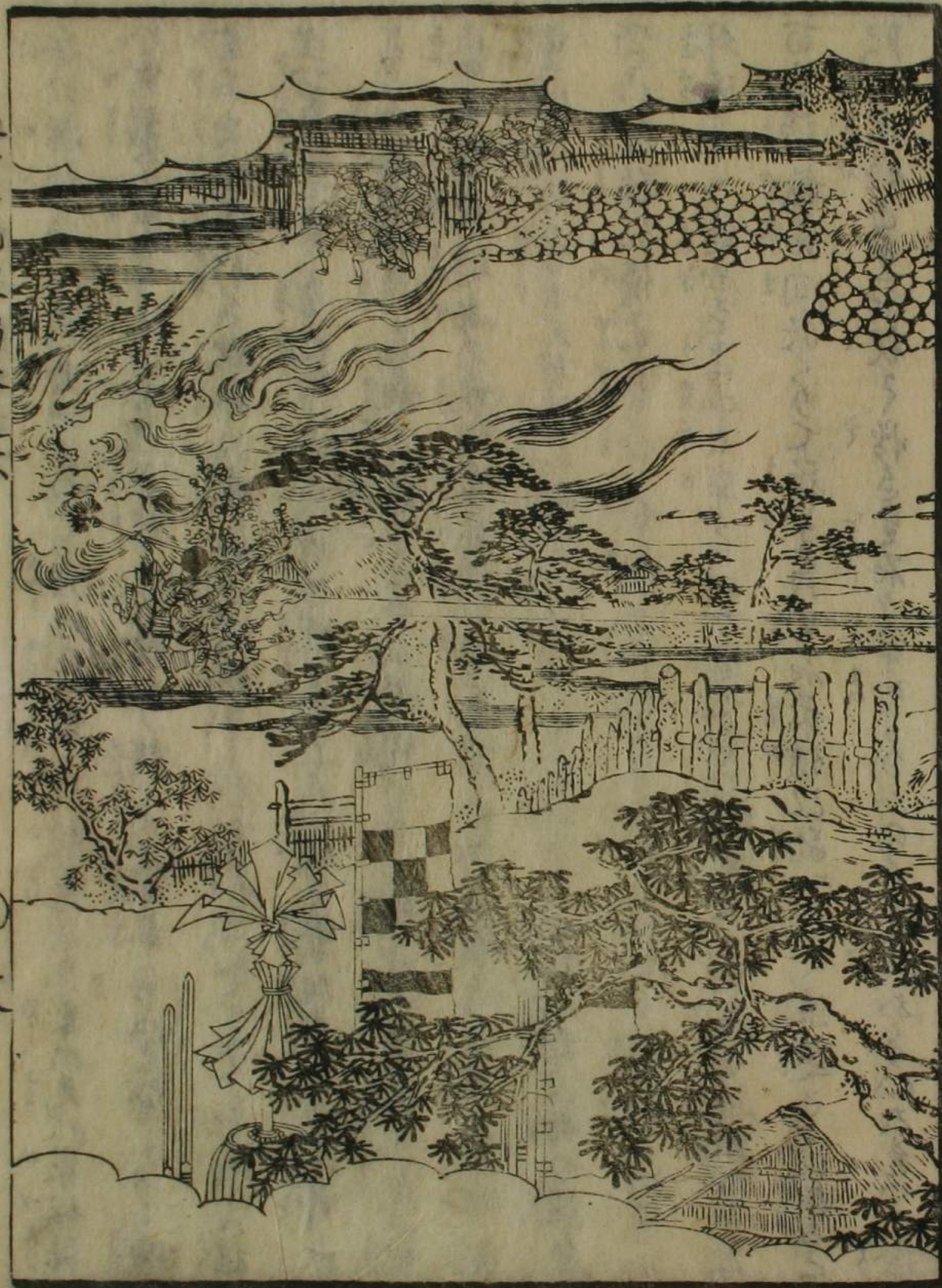
吳猛水に盡て道を現。琴高赤鯉にきて江河を走る。形ありとも。かろ
る。私の城を遁出するの方便あり人。然とも。我騰勇悍の清水宗治。さく
も。臆する氣色なく。鉄石不比して。牢城せり。然るも。大將秀吉。の。回者。せりて
窺する。ふ。元春。隆景。分撥して。日如の城を。取返さる。ふ。の。津。渡。を。な。し。ける
よ。若たり。し。か。も。筑。前。守。喜。悅。する。ふ。と。浪。り。あ。く。款。を。用。ひ。て。款。を。段。計
儀。成。り。ぬ。と。既。す。れ。り。亦。も。遠。事。ハ。い。る。る。方。術。も。と。得。る。ふ。若。傍。に。來。た

加茂の所
に津守の
目より山の
川本は在

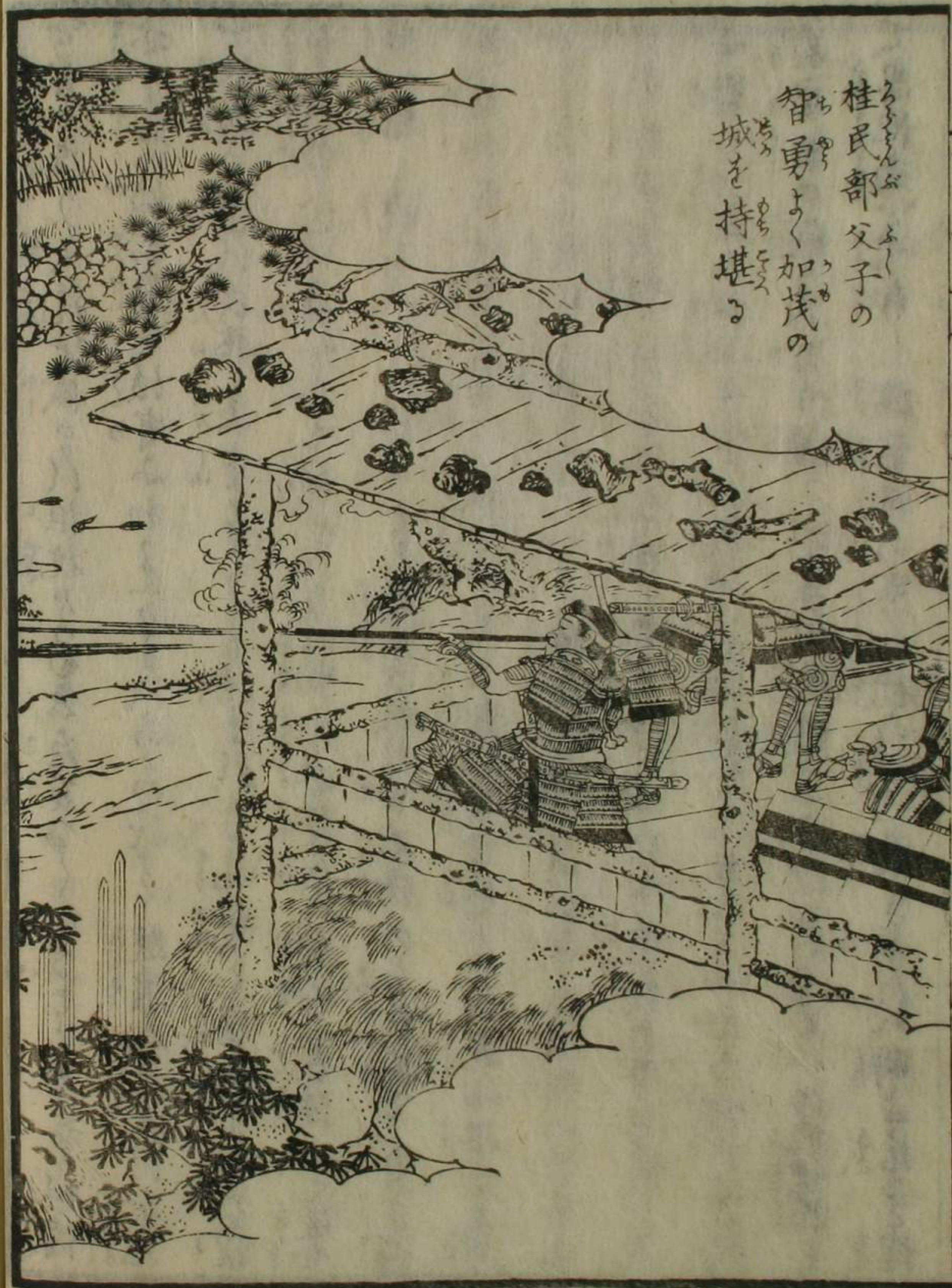
當りて。加茂の墨清と。い。城あり。加茂の郡の界に。本丸に。毛利の。切。桂。氏。於
廣重。嫡子。と。若。重。成。二。男。孫。七。弟。重。勝。を。是。成。守。り。西。の。丸。六。上。山。兵。庫。元
忠。東。の。丸。五。主。石。中。務。友。秋。之。方。通。は。相。繼。り。て。其。勢。之。十。七。百。餘。騎。あり。
中。に。就。て。生。石。中。務。友。秋。ハ。秀。吉。當。面。征。伐。せ。り。め。り。智。謀。絶。倫。に。し。て。
款。を。する。案。ハ。金。碑。し。れ。頃。多。族。の。集。る。の。利。慾。に。迷。ひ。或。威。を。恐。む。て。遂。に
降。参。の。意。を。生。じ。若。波。年。人。の。居。の。城。子。便。り。と。秀。吉。の。方。へ。乞。願。し。ける。
筑。前。守。も。傾。て。り。謀。計。を。り。つ。く。謀。合。今。明日。が。その。うち。も。城。を。勢。を
攻。寇。ら。せ。む。忠。勅。を。抽。ら。る。と。切。骨。あ。る。ふ。お。い。ふ。後。者。よ。う。く。料理
と。んと。稟。遣。し。る。を。生。石。友。秋。大。に。款。び。い。ら。く。思。慮。を。想。じ。ける。か。
一。急。本。丸。の。虚。實。を。試。ん。と。し。け。り。起。出。後。の。初。更。を。り。つ。頃。城。中。被
此。と。視。達。す。本。丸。ハ。桂。廣。重。内。外。を。り。も。扇。形。に。板。人。嚴。重。な。城

又く備の廣重いふもしてや。我内急を悟りしものぞと。急事をたくむ
 むら。おのまこと自己がむも魔えれ。睡たゞく。柱て返く。駿率に命じて
 東の丸に柵を結せ。麻垣を編せけるふ。柱が兵卒あきを見て。急を急人
 通たり。廣重討望。深き。視ま。聆く。小遠と。柵麻垣を。城外。一向。柱
 きて。木丸の方へ。結続せ。あ。奇。怪。な。れ。と。是。流。率。子。あ。ら。び。と。て。奉。光
 にも。示。殿。し。防。禦。の。准。備。を。せ。と。り。生。石。の。柱。が。所。為。を。知。り。兵。隊
 け。ら。は。彼。前。勢。へ。内。通。し。自。勢。を。連。隊。て。曉。る。成。す。ら。惣。明。務。の。報。る。頃
 生。石。が。軍。勢。一。千。餘。人。城。を。攻。め。た。り。た。れ。ば。これ。を。暗。号。に。彼。前。勢。を
 誘。の。城。へ。推。進。す。然。と。も。桂。廣。重。の。領。く。期。した。る。事。な。れ。此。も。發。給。群
 里。返。つ。て。在。ら。け。る。彼。前。勢。の。臺。地。に。城。一。を。投。西。の。丸。を。柵。圍。一。時。攻。め
 人と。接。り。たる。大。將。上。山。兵。庫。助。不。意。を。發。せ。と。發。給。た。り。も。守。方。に

と。覺。く。せ。り。矢。銃。を。威。び。拒。抗。せ。る。由。急。た。右。へ。破。る。こと。あ。ら。び。備
 亦。生。石。の。彼。前。勢。を。後。背。ふ。む。ら。え。る。事。な。れ。あ。ら。は。は。く。駿。進。人。を。一。速。に。丸
 を。攻。陥。せ。ん。と。氏。部。廣。重。と。も。は。才。に。香。銃。懸。く。擊。撃。後。一。處。を。執
 量。突。發。人。と。片。津。を。吞。む。願。ふ。たり。此。响。元。春。隆。景。の。願。山。に。在。陣。して。遠。を
 我。を。暗。と。視。る。より。よ。り。東。を。出。來。る。れ。目。下。是。誘。の。合。戦。發。り。自。方。彼
 不。へ。援。兵。せ。り。他。軍。も。定。て。救。を。出。さ。ん。日。知。の。城。を。攻。め。る。より。遠。小。遠。道。事
 り。り。たる。と。而。地。元。長。元。信。に。一。千。餘。騎。を。跟。從。せ。加。後。の。援。兵。に。出。さ。り。ぬ
 元。春。隆。景。友。將。へ。秀。右。左。の。中。陣。へ。眼。を。屬。て。今。にも。發。給。ある。もの。あり。ぬ
 諸。勢。を。一。度。は。探。出。さ。ん。と。分。據。せ。し。て。待。蒐。たり。然。る。も。加。後。の。城。中。に。柱
 廣。重。旗。の。懸。る。小。目。も。離。さ。び。要。時。祝。儀。に。在。たり。しが。東。北。の。風。吹。掃。し
 て。忽。地。南。を。吹。却。し。旗。當。標。の。悉。く。敵。の。方。へ。靡。さ。な。れ。ば。時。よ。急。を。諸



豊臣五郎左衛門



桂民部父子の
智勇よく加茂の
城を持堪る

豊臣五郎左衛門

兵に指揮し、火矢をもちて東の丸に散々に射菟たり。東の丸は家信様
 へ金葉書遣りたり。名を地子火後り詰くと。燃奉らんとなしける時
 生石左衛門は、懐北に馳率に命じて火矢焼さしむ。それとつるより、本丸は桂
 三男様と希。希は、火矢の馳率を二人一吐に撃損せしむ。不怖れ
 く、其餘の馳率を散々に逃下る由名。鯨頭より、城ふりて、孫一度も燃
 奉り、餘矢進兵の方に吹着、面を向さずやも。得るる處は、氏部廣
 重、極流の勇士三百餘人、圍風推開し、突出たり。四角八面に斬て廻さ
 ば、この驍猛に備不勢。む、倉猛に搦れども、火氣不咽びて、討殺しがごとく。
 外廓より逃出ると、山を庫これを見て、と、廣重より力戒勅せ、逃殺せよと三
 百餘騎、鎧節回し、くりて、狂出せ。生石右衛門は、城を破り、進退これに極るこ
 じ。桂氏は、この事を恨み、情を、生石が奉りよる。おのを逆滅おそい志を、と、陰

推把て、搦菟る。右林を、廣重に及ぶ。命を、三令を、くり、我入、進も、なく。馬
 より下へ、搦落さす。城、嫡子大藏、狂信て、驟に、首を、段落せり。遠勢、威
 に力を、得く。進兵を、轟くと、逃出。門を、必合と、閉る。ち、東の丸は、極大を
 猛精、要時の、息を、休めたり。相違、方の、陣と、小の、愚情の、城は、火の、勢を、着く。
 改菟らんとお、拵る。脚踏、踏りて、等と、つども、大將の、指揮、あつ、されを。
 自方、此、紋を、着る。も、殿て、出ると、あつ、も、秀吉、叔意と、出戦、と、之、評を、し。
 先陣、此、勢を、陣前、進ませ、令、旗を、持て、之、を、ぐる。由、名、進出、て、出戦、を、各、令、や、く、こ。
 勅、搦、起、て、見、え、た、れ。元、長、元、信、一、子、餘、騎、に、く。加、藤、の、城、上、り。田、平、所、搦、さ、り。
 敵、お、發、る。一、戦、小、勝、負、を、決、せ、んと、競、ひ、つ、廂、山、よ、り、大、將、や、を、秀、吉、自
 方の、援、兵、一、ふ、を、う、り、此、小、勢、を、り、と、侮、ま、て、出、馬、せ、よ、か。清、西、堪、や、遠、戦
 へ、是、に、も、非、少、も。あ、家、の、存、亡、を、決、せ、ん、と、桂、が、鼻、の、歌、陣、を、目、も、離、さ、り

此視獲るに在上方勢のいよく駿河加茂の城に兵士とひ。援軍の勢も僅か
 れば遠勢威に攻め加茂の城を得るの事。援軍の勢も僅かに
 下河津指揮いふいふと。大將頼朝小旗のついで。自方を招き。退陣の令
 村餘平次。尾井成義。吉田元長。北条時宗。秀吉。諸將。皆
 して傳へける。由。諸將もこれに終る。多く。會本陣へ。退る。秀吉。諸將。皆
 て曰。我今。敗る。その。ゆゑ。毛利。小早川。海。不。志。一。つ。て。十。死。一。生。の
 合戦なり。其。虚。を。と。り。て。四方。の。土地。を。取。頼。さん。の。謀。計。なり。る。る。由。を
 此。故。意。と。奇。兵。の。計。を。被。け。く。敵。の。銳。氣。を。疲。り。た。る。なり。此。已。後。と
 ても。吾。指。揮。を。人。に。使。して。出。戦。さ。す。べ。く。と。堅。く。自。方。を。制。し。たり。然。る。者
 川。小。早。川。八。万。餘。人。の。將。率。一。奔。今。日。を。そ。の。大。合。戦。に。上。方。勢。の。目。を。駿。河。肝
 を。冷。して。懲。り。し。り。ん。と。五。松。丹。引。て。得。と。り。とも。相。見。ま。が。奇。兵。に。欺。れ。洗。小。討

陣。ま。る。は。は。は。謀。計。の。功。も。な。り。たり。う。ふ。於。て。流。石。も。毛利。の。援。軍。大。軍。を
 是。ハ。駒。馬。を。馳。て。安。土。境。へ。將。軍。河。出。馬。あ。る。を。見。か。り。所。帖。捧。小。信。長。を
 駭。し。め。し。れ。所。帖。を。兩。を。續。し。む。其。父。小。曰
 慎。而。捧。飛。檄。奉。訴。候。今。度。雖。攻。備。中。高。松。城。其。地
 理。全。堅。固。而。武。勇。智。謀。之。士。數。多。籠。居。容。易。落。城
 難。成。因。此。致。水。攻。候。畢。陷。落。既。不。可。出。一。句。之。内
 然。處。毛。利。右。馬。頭。輝。元。為。後。詰。率。數。万。騎。令。出。陣
 可。救。高。松。城。方。術。候。稀。御。勢。聊。於。有。合。力。者。以。其
 勢。令。圍。高。松。指。向。小。臣。勢。以。遂。合。戰。即。時。追。崩。三
 家。中。國。西。國。悉。當。年。中。可。令。屬。幕。下。事。乍。憚。所。在
 小。臣。方。寸。也。此。旨。宜。預。御。披。露。候。恐。惶。謹。言

羽柴筑前守秀吉

天正十年五月十八日

菅谷九右衛門殿

聆しめこれに信長公大に驚うせり。發遣諸老臣及びを國畿内の諸將小命令せり。早く自國へ歸て軍兵調度なり。次第中國へ歸下り。秀吉小力成勅せり。嚴小令せり。是れ諸將の領文して各々國へ歸しける。

光秀再練若遂結謀叛根屬蘭丸産起

自己忠を竭して他人の自己に忠を以て恨む。我腹を傾け信肝を盡したる賢者なり。是に希有なる事出来る。右大臣信長公過法。三月甲州武田征伐の事か。新瑞路小東海道を所登り。富士山等北名取。或く河遊流あり。安去に河瑞城まわしける。然る新瑞軍の加儀。て。備慶を願望せり。人々。惟任日向守光秀を以て總督。役令せり。是に依て光秀も先達て甲府におひて。痛懲せられ。願書も解。若を恨まわしける。懐回せも物種。之獨心を革。密意の役を奉。右大臣にも遠遭ハ。拔群に絶え。命辱られ。右大臣も。ふに徹すと。京師の珍味。楊の委用。名若。命を。準備。相。ける。然わも。備邦の大名。五月十一日。安去大寶院へ。入。司光秀。侍役。けり。權。代。出。入。起。空。供。餼。勅。兵。孫。走。和。信。長。院。中。の。結。搦。機。所。後。お。令。限。珠。

田征伐の事か。新瑞路小東海道を所登り。富士山等北名取。或く河遊流あり。安去に河瑞城まわしける。然る新瑞軍の加儀。て。備慶を願望せり。人々。惟任日向守光秀を以て總督。役令せり。是に依て光秀も先達て甲府におひて。痛懲せられ。願書も解。若を恨まわしける。懐回せも物種。之獨心を革。密意の役を奉。右大臣にも遠遭ハ。拔群に絶え。命辱られ。右大臣も。ふに徹すと。京師の珍味。楊の委用。名若。命を。準備。相。ける。然わも。備邦の大名。五月十一日。安去大寶院へ。入。司光秀。侍役。けり。權。代。出。入。起。空。供。餼。勅。兵。孫。走。和。信。長。院。中。の。結。搦。機。所。後。お。令。限。珠。



東百巴下御水

十二



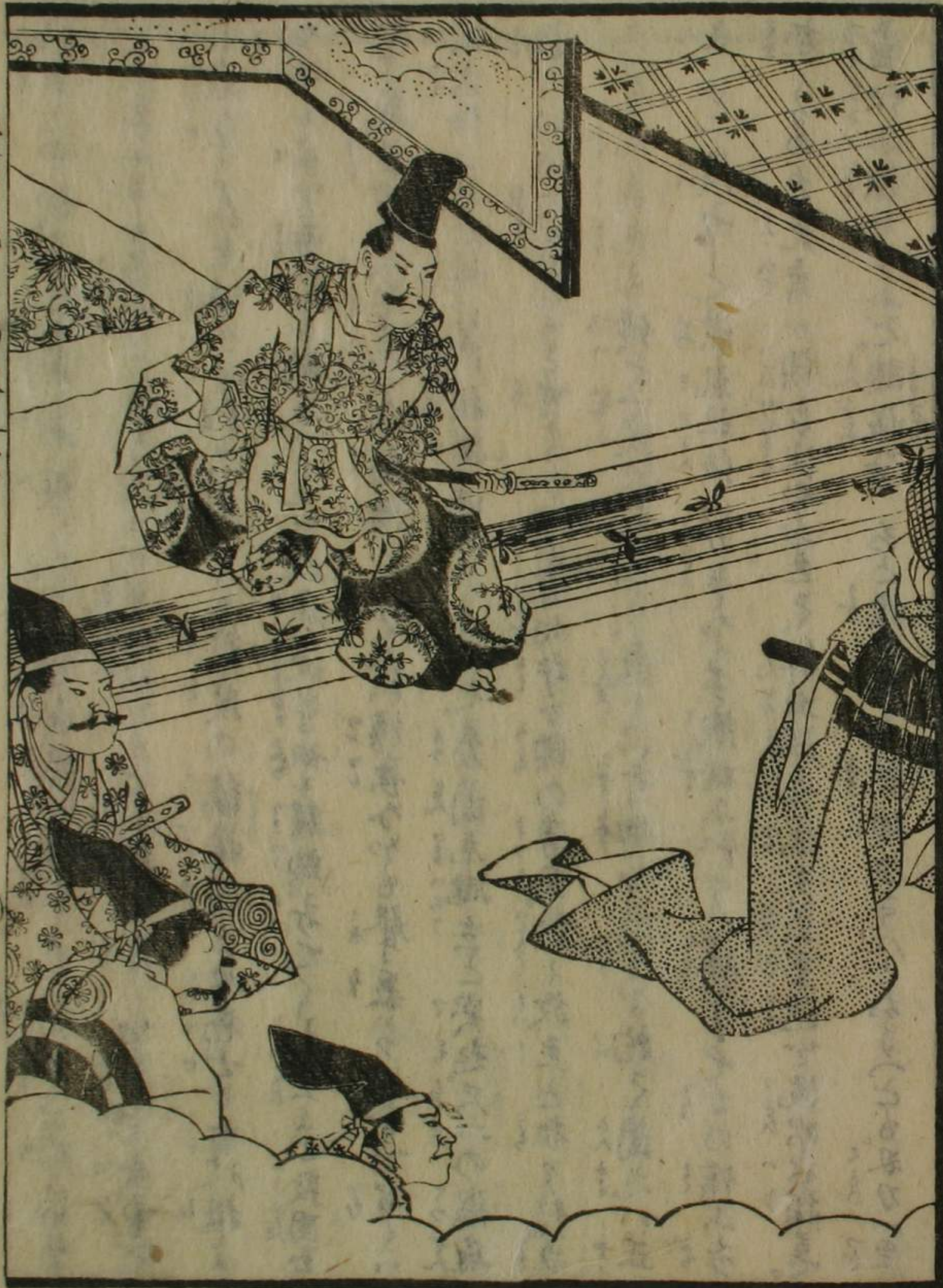
光秀
 饗應司
 命せられ
 大寶院を
 粧乗す

豊目言五

七

を責むる事。教子方の隙をきく。恰も耳目試験をり。了得に諸君
 の信長公も。分外の輝にあがりし。心中不快を懐くを多し。城へ歸らせりしに
 る。其夜。密意を。惟任長秀。不命せし。光秀をりて除る。日向守の
 怪し。河内僧のやと。おのり。信長。光秀を。咄せされ。尋常なる。河内
 志之。遠遭。汝。密意。命せし。處に。法外。ある。種。あり。得。が。し。味。略。あり
 かり。命。せし。とも。東西。六。分。限。加。減。あり。大。寶。院。中。の。盃。盤。飲。食。過。分。と
 け。も。愚。頑。なり。備。勅。使。の。下。向。河。内。遠。上。り。る。密。意。や。し。る。諸。國。の
 武。家。に。懇。志。を。通。し。特。帖。を。お。せ。後。日。の。力。お。る。人。が。為。り。今。更。予。誠。意。を
 して。法。外。も。た。た。る。情。懷。さ。し。と。宣。ふ。伺。ふ。光。秀。最。恨。め。け。し。面。を。憂。し。新
 へ。公。外。る。上。意。よ。こ。し。己。に。若。し。味。略。せ。り。中。に。純。意。せ。し。命。せ。り。と。し。る。不
 け。ら。り。や。河。内。人。の。惟。も。せ。し。光。秀。君。の。命。お。し。り。て。密。意。い。し。と。し。る。不

され。た。し。身。を。さ。し。小。費。悩。凶。抄。の。津。に。珍。奇。を。辨。達。主。徒。幸。若。は。か。ま。り。り。
 新。ま。で。結。核。し。と。處。に。昨日。河。内。を。除。れ。し。河。内。の。所。意。に。慥。え。ぬ。よ。と。慎
 在。たる。不。然。い。は。り。て。過。分。なり。との。密。意。を。被。り。河。内。に。は。づ。る。事。思。は。れ
 る。眞。意。なり。辛。勞。なり。との。所。獲。洞。も。は。づ。め。り。と。と。と。存。せ。り。却。て。密。し
 密。意。を。通。し。矣。む。も。あ。ん。との。所。疑。の。恐。み。が。思。遠。河。内。に。似。し。る。あ。り
 人。才。不。屑。ふ。い。し。とも。光。秀。が。武。道。に。お。い。し。地。門。の。扶。助。を。信。時。と。せ。む。
 何。ぞ。遠。方。の。密。に。論。ひ。密。意。を。傳。は。る。に。鄙。怯。を。做。人。や。賢。慮。も。遠。ひ。い。た
 と。綱。を。放。つ。と。東。一。た。り。を。刺。尚。云。不。快。胸。を。ふ。新。機。を。聆。より。右。大。臣。怒
 願。し。小。奮。費。し。て。領。を。堅。服。を。密。派。お。の。是。光。秀。慮。外。の。情。言。信。長。を。と
 て。小。兒。と。し。る。遭。く。我。意。を。恣。し。綱。を。さ。し。福。懐。さ。し。は。る。禮。を。重。し
 ち。を。誤。し。快。謝。せ。し。と。し。る。密。意。を。傳。は。る。め。お。の。是。が。意。を。り。て。達。人。と。し。る。條



東巴五

十四



右大臣殿
光秀の諫を
怒りて
蘭丸を
打擲せむ

東巴五

十五

不忠とや謂えん。不義とや謂えん。其を以て武道と稱言ふ。若くは其を以て武勇と
 以て稱言ふ。予が家人とありける。主の威を以て小款は。傍に自己が武勇を
 と懐たるを。其を唾し。之を以て。其の教度の。懐懐増え。權極に。其の根よ
 か。予が子を。却るも。穢ら。それ。鹿。從。守。奴。う。腰。頭。お。て。く。お。ま。よ。と。致。圍。む
 つ。も。鹿。從。守。人。起。蒐。つ。て。猶。豫。し。ける。成。信。長。か。や。も。聲。暴。ら。ひ。命。を。背。く。い
 不。忠。ある。と。頻。に。所。指。揮。ゆ。り。ける。に。ぞ。赤。蘭。丸。懸。之。と。突。起。尺。二。の。穢。麻
 握。り。け。ぬ。上。意。あり。と。呼。たり。つ。も。日向。守。が。頭。の。臂。面。勅。く。放。至。と。お。た。れ。力
 丸。房。丸。龜。丸。も。續。て。一。度。に。起。蒐。り。散。々に。打。擲。ひ。中。に。就。く。蘭。丸。の。正
 年。廿。二。歳。少。と。傑。氣。壯。強。の。力。を。あ。ら。う。織。杖。小。似。る。扇。を。そ。か。の。信。小。打
 極。る。内。丸。光。秀。が。額。忽。地。や。ぶ。ま。く。鮮。血。混。と。流。出。素。袍。を。流。次。衣。振。ま。
 盧。紅。小。深。る。ふ。ぞ。疎。懐。か。あ。と。瀝。ま。る。く。斬。頭。か。う。ん。と。お。り。ん。ど。も。又。刀。の。垂

のまに。割。さ。た。ま。は。せ。り。落。ち。て。流。流。し。盡。せ。斷。断。て。在。たり。なる。右。大。臣
 にも。驚。く。一。刹。の。事。と。や。お。が。り。ん。鹿。從。守。を。制。止。ら。ず。日向。守。に。嚮。き。せ
 り。汝。が。後。の。他。人。の。命。と。て。今。の。用。に。た。光。秀。を。れ。以。滅。し。止。ま。在。ら。ん。と。り
 坂。本。に。立。歸。り。誓。居。ま。す。と。命。屬。ら。る。日向。守。の。背。懐。の。胸。刺。裂。る。程。思。へ
 ども。乃。て。さ。中。う。り。く。ま。行。く。と。館。の。内。を。逃。出。し。最。怒。り。け。小。所。願。く。坂。本。城
 へ。を。歸。り。ける。時。に。蘭。丸。所。前。小。對。ひ。今。光。秀。が。氣。色。を。復。る。ふ。必。定。謀。殺。さ。す。べ
 だ。計。り。小。命。を。奉。願。ま。す。登。り。殊。殺。け。る。ら。ん。と。勅。言。を。代。右。大。臣
 難。く。之。笑。も。せ。ぬ。ひ。梁。奴。い。か。れ。と。獨。り。も。命。を。威。勢。に。餘。光。を。獲。難。く。進。退
 ま。る。ふ。孤。身。と。り。を。推。せ。り。小。及。る。力。の。い。を。あ。ら。う。と。繼。令。送。を。あ。ら。う
 も。せ。り。梁。奴。與。力。を。あ。ら。う。の。外。に。あ。ら。う。と。命。を。威。勢。に。餘。光。を。獲。難。く。進。退
 て。言。状。を。く。其。命。を。小。の。ゆ。も。梁。奴。の。ま。の。虚。を。窺。ひ。仇。せ。ん。と。存。と。は。ま

不時の爰に料を乞ひ早く除るを乞ふ人ばあつて天過を連起するに再三
練めまわすやうかども信長更に用ひむを練言ことよりかゝる中國の馬
近きふあふ事せ起さんかと然る處より我亦別ふしませして染を自
然に我死するんと其際ふして圖まて織田家へ運の盡ぬる飛と後あをひ
織らまをる

別て況遠蘭丸の先年宇佐山に我死せし歳に宇佐門可成の二男小
して森勝義の弟なり又宇佐門の江州志賀郡を領したるは我死の
後ハ勝義蘭丸共幼稚なりたれば不領の地を以て明智光秀に賜り
たる然る小蘭丸は將才智に長とる義州年よりなる由も也府添く
龍愛くむい成長を莫大の不領を賜るおわたりしむおんしなるが
蘭丸此歳二十二よりける由も也先達て甲州退治の機會最良才勝義の

其中濃州岩村に方料の御せ場り漸く大月にて是を原に恩恵を被
ふる方なれば是なる實なりたる也此の過ける續ありしが在府蘭丸を愛し
ゆふの河向に移すの珍寶を安排ば遠中かほせられ歎き是示のあ
りしは獲取れとの命せ小蘭丸小長を珍寶珠玉歎きしきとの
とそふらんとそふるは在府節もかゆい外にあふを不領に記
やと遠响蘭丸謹で居が亡父に在府門に江州志賀郡賜りたはば小
長も亦彼地より出生させし父の舊領最分りしははらば
今ハ光秀の所領とされり怖ハ君恩の厚に意に父の所領相
續法よりりたとの外更に望みはらば思徹て重しける信長
不便におかすれ然こそはらば二三年をそのうちあはれ
此位を乞ふと命せられし我輩の願に連次師給已に听在り

くが洞の次取に光秀へ蘭丸の情状状
驚き安けぬ事此よりいづるがふを
襦袢の裾に結びぬ

繪本豊後言五編卷之六

